

KT-SUB Ver.2 追加・変更点の説明 (2017年6月)

(株)構造システム
製品&サポート部門
FAX 03-5978-6780
bus-support@kozo.co.jp

製品の更新によりつぎの機能が追加・変更されました。

Ver 2.0.0.16 : (2017年6月12日更新)

(1) ネット認証ライセンスの自動取得/返却機能に対応

ネット認証 Ver.2 に対応し、ライセンスを自動的に取得、返却が行えるようになりました。

(2) 動作環境変更について

動作対象の Windows オペレーティングシステムはつぎのものです。

Microsoft Windows 10/8.1/7 SP1 以降

※Windows 10 Mobile 用 OS、Windows RT 8.1 は除きます。

Ver 2.0.0.15 : (2016年6月6日更新)

(1) ライセンス認証方法の変更を行いました。

スタンドアロン版のライセンス認証方式を「ネット認証」へ完全移行しました。

Ver.2.0.0.15 以降、ハードプロテクト(HASP)は利用できません。

移行作業が完了しましたら、ハードプロテクトは返却をお願いいたします。返却方法につきましては別途ご案内させていただきます。

(1)動作環境変更について

動作対象の Windows オペレーティングシステムはつぎのものです。

Microsoft Windows 10/8.1/8/7 SP1 以降/Vista SP2 以降

※Windows 10 Mobile 用 OS、Windows RT 8.1、Windows RT は除きます。

(2)ネット認証に対応

「ネット認証」は、概念図のように、通常は構造システムのライセンス管理サーバー側で認証キーをお預かりしています。必要なときにお客様のパソコンからインターネット経由でライセンス管理サーバーの認証キーを瞬時に取得することができます。

公衆無線 LAN 環境、ポケット Wi-Fi、スマートフォンのテザリング機能などを利用すれば、場所を選ばずにソフトウェアを利用できます。

また、取得した認証キーは一定期間パソコンに保持することも、使用後に返却することも自由にできます。

取得した認証キーをパソコンに保持する場合は、最大 90 日間オフライン環境でソフトウェアを使用できます。社内だけでなく社外でのソフトウェア使用も可能です。



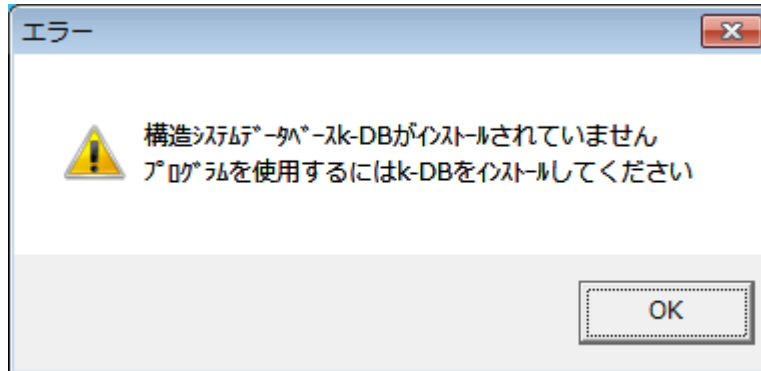
ネット認証への移行期間 (2016 年 5 月末日) は、ハードプロテクトによるライセンス認証も可能です。ネット認証への完全移行後、ハードプロテクトはご返却をお願いいたします。返却方法につきましては別途ご案内させていただきます。

また、ネット認証移行作業は 2015 年 9 月に送付いたしました「ライセンス認証方式移行のご案内」の同封資料「スタンドアロン版 (HASP) からネット認証版への移行手順」またはオンラインサービス・サポートの「ネット認証」Q & A (<http://support.kozo.co.jp/support/paralist.php?p2=49>) をご覧ください。

(1)構造システムデータベース(k-DB)に対応

起動時または鋼材データベース参照時のメッセージ

つぎのメッセージが表示される場合は、鋼材データベース等を含む「構造システムデータベース k-DB」ソフトがインストールされていません。



つぎの方法で k-DB のインストールをお願いいたします。

(1)ダウンロードしてインストール

弊社ダウンロードセンターからセットアップを入手してインストールを行ってください。

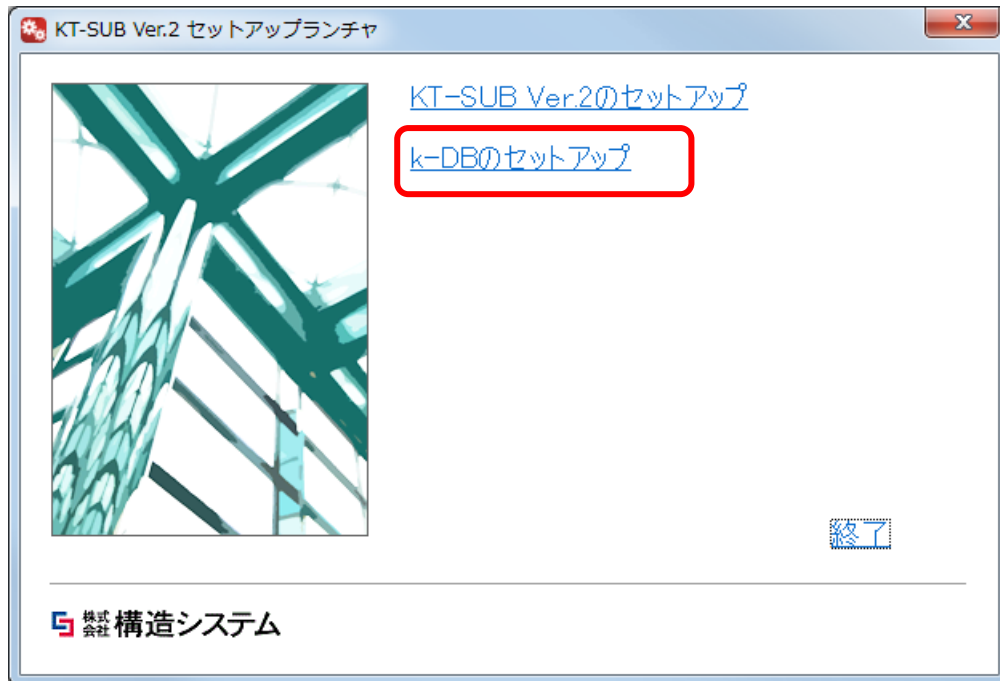
ダウンロードセンター 「k-DB アップデート」

→ http://support.kozo.co.jp/download/file_view.php?p3=1016

(2)KT-SUB Ver.2 製品 CD からインストール（新規ご購入の場合）

KT-SUB ver.2 セットアップ CD からセットアップランチャーを起動して

[k-DB のセットアップ]を選択して「構造システムデータベース k-DB」のインストールを行ってください。



Ver 2.0.0.11 : (2013年 11月 5日更新)

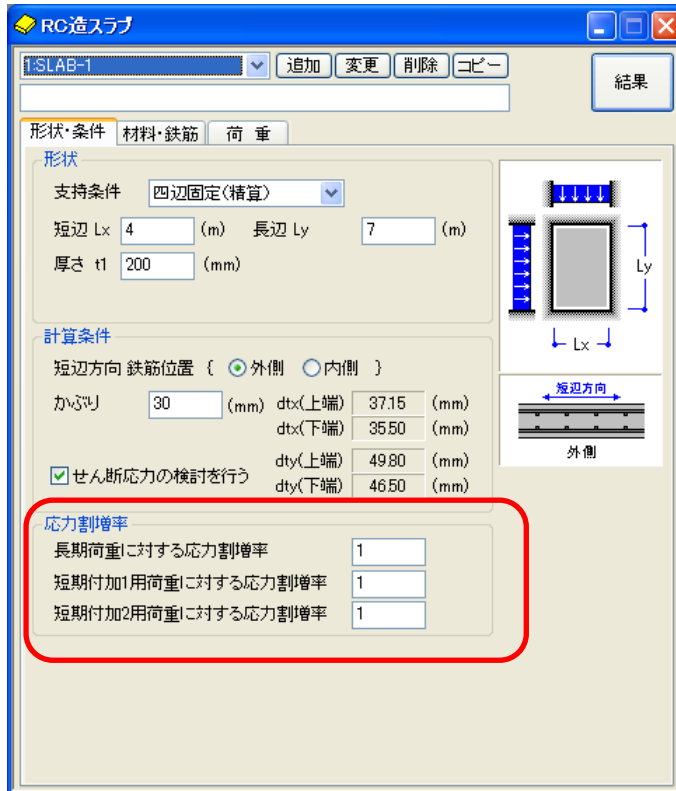
(1)「S 造小ばり」の計算で、断面形状に「2 軽量C形鋼（背合わせ）」を追加

(2)BUS-5 から KT-SUB への転送で、BUS-5 Ver.1.1(DB6.6.0.0)より S 造小ばりの断面形状タイプ追加による転送に対応

(1) 「横補剛の接合部と剛性確認」の計算で大ばりの降伏点強度倍率を入力できるようにしました。

The screenshot shows a software dialog box titled "横補剛の接合部と剛性確認" (Cross Stiffener Joint and Rigidity Confirmation). The window title bar includes standard OS controls (minimize, maximize, close) and a "結果" (Result) button. Below the title bar, there is a dropdown menu showing "1:STIFFENING-1" and buttons for "追加" (Add), "変更" (Change), "削除" (Delete), and "コピー" (Copy). The main area is divided into two tabs: "形状・条件" (Shape/Conditions) and "材料・接合" (Material/Joint). The "形状・条件" tab is active and contains several sections: "ボルト" (Bolts) with fields for "呼び径" (Nominal diameter) set to M20, "摩擦(せん断)面の数" (Number of friction/shear surfaces) set to 1, "列数 nw" (Number of columns) set to 1, "行数 mw" (Number of rows) set to 2, "ピッチ(列方向)" (Pitch in column direction) set to 60 (mm), and "ピッチ(行方向)" (Pitch in row direction) set to 60 (mm); "ガセットプレート" (Gusset plate) with "厚さ" (Thickness) set to 9 (mm) and "タイプ" (Type) set to "タイプ1"; and "スタッドコネクタ" (Stud connector) with "呼び名" (Nominal name) set to "16φ". The "使用鉄骨" (Use steel section) section has dropdowns for "大ばり" (Large section), "小ばり" (Small section), "ガセットプレート" (Gusset plate), and "ボルト" (Bolts), all set to "設定値" (Default). A field for "大ばりの降伏点強度倍率" (Large section yield strength multiplier) is highlighted with a red box and set to 1. The "使用コンクリート" (Use concrete) section has "コンクリート種類" (Concrete type) set to "設定値" (Default), "設計基準強度 Fc" (Design strength Fc) set to 0 (kg/cm²), and "鉄筋コンクリート単位体積重量 γ" (Reinforced concrete unit weight γ) set to 0 (t/m³) with a checked "自動" (Automatic) option.

(1) 「RC造スラブ」の計算で、全体で1つしかなかった応力割増率を荷重別に応力割増率を設定できるようにしました。



Ver 2.0.0.7 : (2012 年 1 月 24 日更新)

(1) 「横補剛の接合部と剛性確認」の計算で、補剛材の取り付け位置の入力を追加しました。
大ばり天端より小ばり天端が上にある場合に正值で入力します。

横補剛の接合部と剛性確認

1-B4(両側) 追加 変更 削除 コピー 結果

G2に対する横補剛(両側付)

形状・条件 材料・接合

大ばり

H	B	tw	tf	r	(mm)	鋼材DB
396	199	7	11	13		

小ばり(補剛材)

H	B	tw	tf	r	(mm)	鋼材DB
198	99	45	7	8		

補剛材長 6.39 (m) 補剛材の位置 Δh 0 (mm)
(※大ばり天端より小ばり天端が上にある場合が正值)

計算条件

補剛材の取り付け 片側 両側

補剛材を小ばりとしての使用 使用する 使用しない

フランジの上拘束 拘束する 拘束しない

補剛材端部の長期せん断力 Q_v 6.17 (kN)

横補剛区間の長さ l_b 3.275 (m)

集中横力計算係数 $F=$ 0.02 $\times \sigma_y \cdot A / 2$

スタッドの短期許容せん断耐力計算係数 $q_s=$ 0.6 \times スタッドの終局耐力

Ver 2.0.0.6 : (2011 年 9 月 8 日更新)

(1) WALL-1 (Ver1.0.0.21 以降)、HOUSE-WL Ver.2 (Ver2.0.0.1 以降)からの KT-SUB への転送に対応しました。

※WALL-1 からの転送方法については、WALL-1 Ver1.0.0.21 以降のセットアップ CD または確認申請用プログラム利用者の会のホームページよりダウンロードしたファイルに含まれる WALL-1 変更点資料-Ver1.0.0.21.pdf の「6.KT-SUB への床部材情報の転送」を確認ください。

※HOUSE-WL Ver.2 からの転送方法については、HOUSE-WL のメニューバーから「ヘルプ」→「概要・操作・入力編」をクリックしてマニュアルを開き、「第 4 章 他のプログラムとの連動 4.2 KT-SUB への床部材情報の転送」を確認ください。

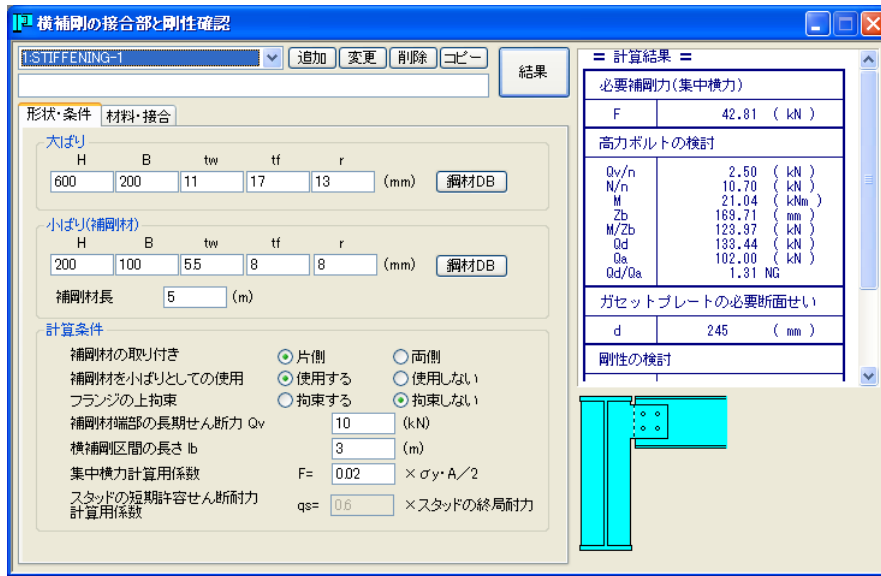
Ver 2.0.0.5 : (2011 年 8 月 3 日更新)

(1)ヘルプとユーザーズマニュアルに、「横補剛の接合部と剛性確認」と「BUS からの床部材情報の転送」の内容を追加しました。

※Ver2.0.0.4 であった製品のヘルプメニューの PDF 形式の説明資料「横補剛の接合部と剛性確認」は、ヘルプとユーザーズマニュアルに記載したため削除しました。

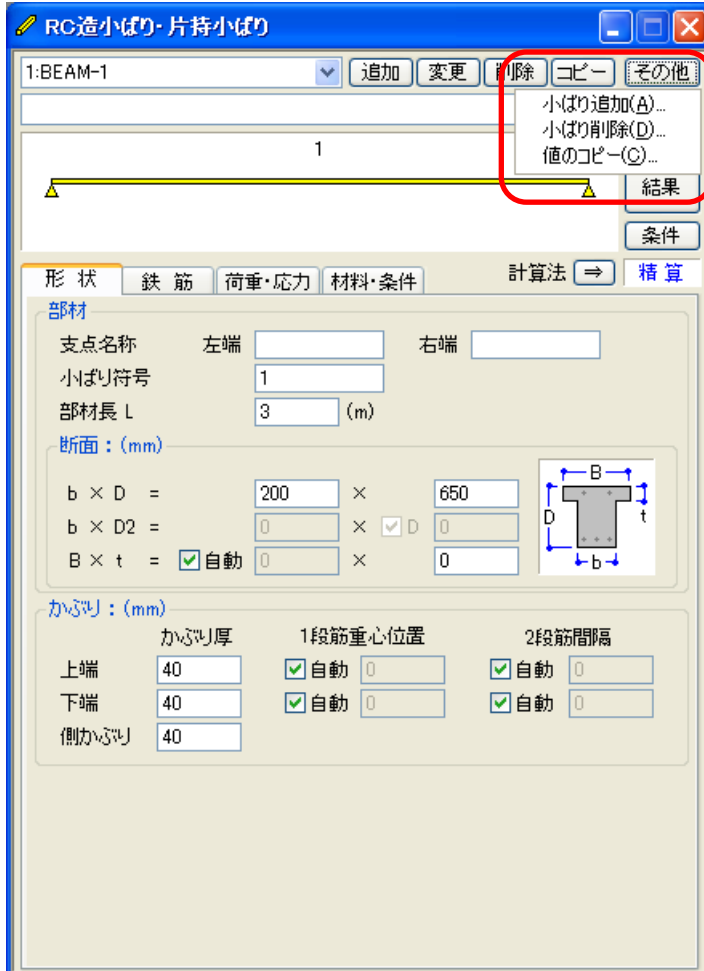
(1) 「横補剛の接合部と剛性確認」の計算機能を追加しました。

財団法人 日本建築センター機関誌「ビルディングレター」2010 年 8 月（第 536 号）の“【質問と回答】「建築確認・検査」及び「構造計算適合性判定」の申請に役立つ Q&A”にある『横補剛材の強度と剛性の具体的な検討方法について』による大ばりに取り付く横補剛材（小ばり）の接合部と剛性の確認を行います。



(1)小ばりの追加、削除、コピーのメニューの追加

ダイアログに [その他] ボタンを作成し、小ばりの追加、削除、コピーのメニューを追加しました。



※操作方法については、ユーザーズマニュアル P.32 「2.2.4 小ばりの追加・削除・入力値のコピー」を参照してください。